

今年の6月は例年になく気温が低く、農作物への影響が心配されています。暑さが戻り、夏らしい季節の到来を願わずにはられません。

今年も7月4日（土）午後6時から、旭川グランドホテルで第12回道北・旭川恵迪会寮歌祭が開催されました。寮歌祭には、昭和21年入寮の石坂實さんをはじめ16名の参加がありました。また、北海道支部の千川浩治副支部長（昭和40年）、大谷文昭幹事（昭和43年）が来賓として参加されました。うれしいことに、今年の寮歌祭に二人の新入会員を迎えることができました。森満範君（昭和57）、渡辺誠二君（昭和58）の両君です。二人とも現役の研究者で、農学部林産科出身、共に応援団で活躍したばかりでなく、今年も美瑛ヘルシーマラソンに参加した凛々しいスポーツマンです。

9年ぶりに参加された豊田馨さん（昭和25年）からは、旭川寮歌校歌振興会（平成19年10月を最後に終了）で引き継がれてきた寮歌祭の「のぼり、羽織等」が、道北・旭川恵迪会に寄託されました。

また、二川義昭さん（昭和26年）からは、5年前に札幌での個展で展示した「恵迪寮歌水墨逍遥」の絵葉書集が参加者に配られ、原



版の複製が同窓会に贈られました。（HPにアップ予定）

寮歌祭は参加者全員からの近況報告スピーチの後、寮歌を高唱し、最後は「都ぞ弥生」で締めて、来年の再会を誓い合いました。



今年は恵迪寮がマスコミに注目された当たり年です。1月にNHK「ドキュメント72時間」で現在の恵迪寮生のリアルな日常が映し出され、6月には、HBCテレビ「語り継ぐ記憶・・・寮歌に残る戦争と自由」で寮歌をめぐる戦争の痕跡に焦点を当てた特集が放映されました。NHKの放送については案内状でふれましたので、今回はHBCの特集に注目したいと思います。

まず取り上げたのは「津軽の滄海の」（昭和13年）7番と「春来にけらし」（昭和17年）4番にある明らかに戦時の風潮を反映した歌詞です。それでもそれが寮歌の後ろの方に置かれているのは、時流に抗う当時の学生のささやかな抵抗だったと恵迪寮同窓会の藤田正一副会長が推測しています。

現代の寮生はどうだろうか。寮歌普及委員会のあるメンバーは、戦意高揚の歌詞にメロディさえ良ければ歌う。「抵抗感」は「何もない」と言い切る。一方で“おじいちゃんたち”がこの歌詞をあえて歌わないのだと感ずることもすごく大事と訥々と語る寮生もいる。戦争と平和めぐる現代の学生の立場は多様で複雑、とても一筋縄で括ることはできません。

二川冬湖水墨画展のご案内

当会会員二川義昭さんの水墨画展が下記の日程で開催されます。秀逸です。是非ご覧ください。

9月1日（火）～7日（月）

西武B館10階「旭川市民ギャラリー」